

岡山芸術交流 2025 スペシャルイベント 世界的キュレーターによる公開インタビューを開催します

世界的キュレーターであり岡山芸術交流2025参加ゲストのハンス・ウルリッヒ・オブリスト氏が登壇する公開インタビューを開催します。

1 日 時

令和7年11月7日(金) 14時～15時30分 (受付:13時30分～)

2 場 所

岡山県天神山文化プラザ 第1展示室(北区天神町)

※同会場の映像作品は当日11時30分頃から16時頃まで鑑賞できません。

3 内 容

日本を代表する詩人である 吉増剛造氏 をお迎えし、オブリスト氏がインタビュアーとなつて、吉増氏の作家論や作品論についてお聞きする公開インタビューです。

登壇者: ハンス・ウルリッヒ・オブリスト /キュレーター

吉増 剛造(よします ごうぞう) /詩人

定 員: 40 名(事前予約不要、先着順)

参加費: 無料

4 取 材

当日の取材を希望される方は、11月6日(木)17時までに、社名・来訪予定人数を、お電話でお知らせください。

5 備 考

岡山芸術交流は岡山城・岡山後楽園周辺の歴史・文化施設等を会場に、2016 年から3年に1度開催している国際現代美術展です。

Artistic Director : フィリップ・パレーノ Philippe Parreno

展覧会タイトル : 青豆の公園 The Parks of Aomame

参 加 ゲ ス ト : 11 か国・30 組

会 期 : 2025 年 9 月 26 日(金) ~ 11 月 24 日(月・休)

W E B : <https://www.okayamaartsummit.jp/2025/>



Web



Instagram

【問い合わせ先】

文化振興課 藤野 矢吹 直通086-221-0033



別紙

ハンス・ウルリッヒ・オブリスト | Hans-Ulrich Obrist (1968 年、スイス)

ロンドンのサーペンタインのアーティストティック・ディレクター、LUMA アルルのシニア・アドバイザーを務める。1991 年の初展示「ワールド・スーパ（キッチン・ショー）」以来、350 以上の展覧会をキュレーション。なかでも代表的なものに、「Do It」シリーズ（1993 年～）、「Take Me (I'm Yours)」(ロンドン、1995 年；パリ、2015 年；ニューヨーク、2016 年；ミラノ、2017 年)、第 14 回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展のスイス館（2014 年）などがある。オブリストはまた、「Cities on the Move」シリーズ（1996 年–2000 年）、「Laboratorium」(1999 年)、でのオペラグループ展「Il Tempo del Postino」(マンチェスター、2007 年；バーゼル、2009 年)、「The 11, 12, 13, 14, 15 Rooms」シリーズ（2011–2015）の共同キュレーションも手がけた。最近の主な展覧会に、ミラノ・トリエンナーレでのエンツォ・マリ展（2020 年）、ポンピドゥー・センター・メスでの「WORLDBUILDING」(2023 年)、ユリア・シュトローシェック・コレクション展（デュッセルドルフ、2022 年）などがある。2011 年には CCS バード賞キュレーター部門、2015 年には国際 Folkwang 賞を受賞。最近では、アメリカ鑑定家協会より 2018 年度優秀芸術賞を受賞した。オブリストは、学術機関や美術機関で国際的に講義を行い、複数の雑誌やジャーナルの寄稿編集者でもある。近著に『Ways of Curating』(2015 年、邦訳：『キュレーションの方法：オブリストは語る』)、『The Extreme Self: Age of You』(2021 年)、『140 Artists' Ideas for Planet Earth』(2021 年)、『Edouard Glissant : Archipelago』(2021 年)、『James Lovelock : Ever Gaia』(2023 年)、『Remember to Dream!』(2023 年)、『Une vie in progress』(2023 年) など。

吉増剛造 | Gozo Yoshimasu (1939 年、日本)

1963 年、慶應義塾大学文学部国文学科卒業。1960 年代より詩作を始める。

近年の主な展覧会に、「吉増剛造展『アイウエオ、ノ、ア！』」(Signal、東京、2025 年)、「ネノネ」(Signal、東京、2024)、「フットノートー吉増剛造による吉増剛造による吉増剛造」(前橋文学館、群馬、2023 年)、「普遍言語へー詩人・吉増剛造の世界展」(井上靖記念館、旭川、2023 年)、また第 15 回上海ビエンナーレ、第 36 回サンパウロ・ビエンナーレ（ともに 2025 年）など、国際的な展覧会にも参加している。これまでに日本芸術院賞・恩賜賞（2015）、文化功労賞（2013 年）、紫綬褒章（2003 年）などを受賞。近著に『DOMUSX』(コトニ社、2024 年)、『Voix』(思潮社、2021 年) [第 1 回西脇順三郎賞受賞]、『詩とは何か』(講談社現代新書、2021 年)、『裸の common を横切って エマソンへの日米の詩人の応答』(小鳥遊書房、2019 年) など。



Photo: Elias Hassos

左：ハンス・ウルリッヒ・オブリスト
右：吉増剛造

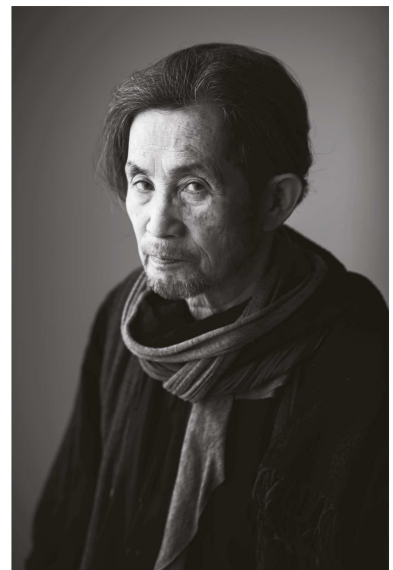


Photo by Kiyoshi Mori.

Courtesy the artist and Take Ninagawa, Tokyo.